

# カラス

ハシボトガラスとハシボソガラスが農作物等への被害を発生させますが、島根県ではイノシシについて被害金額が多いです。被害対策のための捕獲数も1,500～2,000羽と多いです。効果的な被害対策について紹介します。



## ◇カラスの生態

身体的特徴	ハシボトはくちばしが太くて湾曲するが、ハシボソは細めでまっすぐ。
食性	雑食性で、なんでも食べる。ハシボソは農作物や昆虫、ハシボトは種子や肉類を好む。
能力	記憶力が良く、人の顔を見分ける。鳴き声によって、仲間とコミュニケーションをとる。色を見分けて、夜目も利く。鼻は利かない。
繁殖能力	2歳から繁殖は可能。3月頃にペアとなって、4～5月に3～5個の卵を産む。6月頃には巣立つ。
寿命	20年程度。
行動圏	都会では4～5km四方。田舎ではやや広い。

残飯を多く出して、大量に生ゴミや農作物の残渣(放置野菜、イネのヒコバエなど)を放置している人の生活スタイルの変化によって、生息数が増加して、被害が発生している。

また、これらの知らず知らずの餌付けによって、人慣れが進んで、集落の田畑がカラスの餌場になっている。

そのため、地域ぐるみでの誘引餌の除去や追い払いを実施する必要がある。

## ◇主な被害

ブドウ、カキ、ナシ、ミカンなどの果実。トウモロコシ、トマト、スイカ、キャベツ、ダイコン、ムギなどの野菜。家畜の後産(胎盤、羊膜)の味を覚えると子牛の目を突くこともある。

また、生ごみをあさって、鳴き声による騒音害や糞害、繁殖期の人への攻撃などの問題もある。



ミカンの食害



ダイコンの食害

# ◇カラスの被害対策

## 1. 果樹園や畑での被害対策



防鳥ネットなどで周囲を囲む。大規模な場合は、天井にはテグス糸を張る。畑などでは、カラスの行動を観察して、止まり木となる場所から畑へ降りる際に邪魔になるようにテグス糸を張ると効果的である。また、キラキラ光る防鳥糸よりも極細黒色ステンレス線が丈夫で見え難くて良い。

さらに、ロケット花火などで追い払って、人とカラスの緊張関係を再構築する。この際には、塩ビパイプなどを使った発射装置を使用すると効果的である。

## 2. 捕獲による対策



生息数を減らすために、捕獲檻(東京都型)を設置する。畜産施設の近くなどのカラスが集まりやすい場所に設置するが、果樹園の中などに置いてはいけない。檻の中には、おとりのカラスと誘引餌(放棄果実、牛脂など)、きれいな水を入れておきます。幼鳥が巣立った後の夏期～秋期と餌の少なくなる冬期によく捕れます。

ただし、田畑での誘引物の除去や追い払いなどと一緒には実施しないと捕獲の効果は出ない。つまり、誘引物が豊富にある状況がそのままであれば、捕獲をしながらカラスの数を増やしていることになる。

これらのことは、集落ぐるみで実施すると効果的である。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER  
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科：鳥獣対策科

問い合わせ先：0854-76-2025 (代表)

E-mail：chusankan@pref.shimane.lg.jp